

被災土蔵を「左官技術研修蔵」として修復活用する実証的研究

NPO 法人 輪島土蔵文化研究会

1. 研究活動の背景と目的

【輪島側の社会的要請】

輪島の土蔵の左官技術が全国的なレベルよりも水準が低く、大きな被害を被ったので、地震に強い工法を新たに導入する必要がある。また、被災したままでまだ修復できてない土蔵は、輪島市内だけでも数十棟あると見込まれており、左官技術者を確保し支援する必要がある。

【左官側の社会的要請】

左官職人でも土壁の仕事をしたことのある者は2〜3割以下と推測され、土蔵づくりを学びたいというニーズはかなり大きい（ボランティア参加された左官職人へのヒアリング調査結果）。サンプル小舞等での左官研修は国内数カ所で行われているが、実際の土蔵において段階的に技術を研修する場が存在しない。

以上の社会的な背景から、輪島ならびに全国の左官職人を対象とした土蔵修復技術を研修する場を提供することを目的とし、遊休化した被災土蔵を所有者から借り受け、研修を兼ねて修復を行っていく。

2. 活動経過

（1）左官職人との事業推進の打合せ

第1回 総監修・久住章氏との打合せ

■2008年6月29日（日）13:00-15:30

■参加者：左官職人・久住章氏、竹本茂之氏、島田幸任氏、建築家・小林吉則、事務局・水野

第2回 講師との打合せ

■2008年9月3日（水）18:30-19:30 金沢にて

■参加者：石川県左官業組合・竹本茂之氏、福井県左官工業組合・島田幸任氏、小林、水野

（2）近隣住民への事業内容説明会

■2008年7月3日（木）18:30-19:45 区長宅にて

■参加者：近隣住民10名、建築家・小林吉則、事務局・水野雅男

■背景：昨年度の震災復興支援作業で、剥離した壁土を解体し処分場へ運搬する際に粉塵や騒音などで迷惑を掛けたことから、我々の活動に対して不信感を抱いていた。

■説明概要：事業の目的、スケジュール、作業車両の動線、粉塵対策、修復後の利用等

（3）下準備ワークショップ

■2008年8月9日（土）-12日（火）

■参加者：大学生ら一般ボランティアのべ20名

■概要：昨年、剥離した壁土を撤去した前蔵が傾きだしたので、残っていた1面の壁土を急遽解体撤去する必要があるため、作業を行った。落とした土を土嚢袋2千個に詰め、処分場へ軽トラックで運搬した。

（4）現場実測・図面作成ワークショップ

■2008年6月-7月の週末

■参加者：金沢工業大学、金沢美術工芸大学、石川高等専門学校 of 学生 5 名、建築家・小林吉則

■概要：天野邸の土蔵と近隣を含む敷地の実測、平面図、立面図などを作成した。

(5) 竹小舞の材料と工法の検討会

■2008 年 7 月 19 日（土）

■参加者：竹松・田邊松司氏、左官職人・竹本茂之氏、島田幸任氏、建築家・小林、萩野

(6) 資材搬入通路確保のための工事

■2008 年 8 月 1 日（金）-18 日（月）

■参加者：学生ボランティア 7 名

(7) 竹小舞かきワークショップ

【第 1 回】2008 年 8 月 23 日（土）-24 日（日）

■参加者：左官職人 34 名、一般ボランティア 39 名

【第 2 回】2009 年 1 月 11 日（日）

■参加者：左官職人 10 名、一般ボランティア 3 名

【第 3 回】2009 年 1 月 25 日（日）

■参加者：左官職人 7 名、一般ボランティア 3 名

【第 4 回】2009 年 2 月 22 日（日）

■参加者：左官職人 5 名、一般ボランティア 3 名

【第 5 回】2009 年 3 月 8 日（日）

■参加者：左官職人 7 名、一般ボランティア 8 名

【第 6 回】2009 年 3 月 20 日（祝）-22（日）

■参加者：左官職人 8 名、一般ボランティア 5 名

当初は、全国の左官職人を対象として合宿形式の研修場を想定していたが、輪島の立地特性からして交通アクセスが良くないことから現実性が乏しいことが判明した。そこで、比較的近距离にある北陸エリアの左官職人が通いながら技術を習得するようにすることに軌道修正した。実際に、石川、福井、富山三県の若手職人の中で、土蔵修復技術の習得に対して意欲のある方が 30 名前後いることが判明し、その人数はひとつの土蔵を手掛けるのにちょうど良いと判断された。

また、職人は一般的に土曜日にも仕事しているので、研修に時間を割けるのが日曜日に限定されることから、基本的に日帰りで研修に参加してもらうスタイルを取るようになった。さらに、仕事の疲れを癒すことも必要であるので、毎月 1〜2 回の頻度で研修会を開催することとなった。天候が優れなくなる冬場は仕事が手薄になることから、1 月から本格的に研修プログラムを継続していくことになった。そのようなスケジュールを組むため、今年度は竹小舞かきに集中し、翌春に「手打ち」という土付け作業を行うことにした。

竹小舞かきの前に、通路の確保のための作業や、隣の土蔵の壁土撤去作業などの準備に多くの時間を費やしたことも想定外であった。

我々の他の土蔵修復ワークショップを通じて、輪島市や珠洲市在住で意欲的な若手の左官職人が見つかリ、この研修プログラムに参加することになったのは大きな収穫である。

【資材搬入通路確保のための工事】



資材搬入通路になる隣接敷地の草むしり



砂利敷き終了



通路部分の小屋の解体作業



同左



同上の廃材は処分場へ運搬



資材搬入通路完成（奥正面は新規収納小屋）

【第1回竹小舞かきワークショップ】



間渡しの受け口をドリルで穴開け



間渡し竹の挿入



縄で竹を編む（かく）



同左（講師が研修生を指導）



縄と竹の切断作業



間渡し竹、竹釘づくり作業

【第2回竹小舞かきワークショップ】



久住章氏から竹小舞の構造と強度について講習



扉の図面を囲みながら構造について講習



一人一人に対して縄の編み方を手ほどきする

3. 活動の成果と課題

■若手を中心とした研修需要が顕在化

研修プログラムが進むにつれ、活動をインターネットやクチコミで知った若者が北陸三県から参加するようになって人数が少しずつ増えてきた。このように、土壁づくりを求めている左官職人のニーズが顕在化し、それに応えるようなプログラムが実行されてきた。

■研修プログラムの実行体制（ネットワーク）の構築

石川県左官業組合、福井県左官工業組合、東京都左官業組合平成会、篠山市左官技術研究会など、左官業界からは、絶大なる支援をいただけるようになった。さらに、総監修・久住章氏の指導のもと、竹本茂之氏（石川県）と島田宰任氏（福井県）の二人の講師による若手の指導体制が整ってきた。

■我が国初の左官研修場の環境整序

研修場となる土蔵へのアプローチの整備が整い、資材や材料を搬出入できる環境が整った。さらに、研修する土蔵の回りには足場が設置され、これから数年間の作業実習のまさに足場が固められた。現場で土壁を作ることができる我が国初の研修場が出現した。

■地震に強い土壁構造と技術の研修記録

久住章氏により、これまでの輪島（能登地域）の左官技術の弱点を補うような「地震に強い土壁構造」が提案され、その技術を研修できることになった。その研修の様子（手作業）を写真と映像に記録しており、それを来年度編集することにより、貴重な技術記録を社会に提示することが期待されている。